

上関原発ボーリング調査着手

中電社長「最短で4月」

中国電力の清水希茂社長は10日、山口県上関町での上関原発建設計画で反対派住民の抗議行動により実施を見送った海上ボーリング調査について、早ければ4



「埋め立て工事は期限内に完了させたい」と繰り返し述べる清水社長

月にも着手したいとの考えを示した。県庁で村岡嗣政知事への年始あいさつ後、報道陣の取材に応じた。

中電は昨年11月14日から今月末までに調査の完了を予定していたが、現場海域で反対派の漁師が船で抗議活動を展開。冬場は荒天で機材を確保できないこともあり、当初に予定した時期の調査開始を断念した。

清水社長は抗議が原因の中断について「残念に感じる」と発言。計画の進行に

影響が及んでいることを認める一方、「埋め立てを免許の期限(2023年1月)内に完了させる意思は変わらない」と強調した。調査開始のめどについては「最短でいえば4月ごろ。安全確保を前提に地元の理解を得ながら進めたい」と述べた。

また、世界で二酸化炭素の排出量削減の議論が深まっているとし「日本では原子力がベースに入らないと現実的な絵を描けない。既設の原発だけでは高い目標を達成できず、新規の上関の必要性は高まっている」と話した。

(門脇正樹)